

長野県高山村におけるカイサカネランの新産地

井浦 和子*

New locality of *Neottia japonica* (M.Furuse) K.Inoue in Takayama Village, Nagano Prefecture

Kazuko Iura

カイサカネラン *Neottia japonica* (M.Furuse) K. Inoue は、これまで山梨県・長野県（今井・井上 1998；今井 1999）及び、北海道（内田・滝田 2007）において 10 産地が報告されており、環境省版レッドリスト（環境省 2007）で絶滅危惧 I A 類（CR）に、長野県版レッドデータブック（長野県 2002）で絶滅危惧 I A 類（CR）に判定されるなど、たいへん稀な植物であることがわかっている。

今回は、本種の新産地を確認したので報告する。報告者の井浦は、2007 年 9 月 13 日に高山村の山中にて、見なれない植物を見つけた。3 花茎を出している株と 1 花茎のみを出している株が 2 m ほど離れて生育しており、開花中であった。腐生ランの一種と思われたが、その場で同定ができなかったため、写真で記録をとり標本（1 花茎）を採取した。後日、長野県環境保全研究所 & ハーバリウム N A C の大塚孝一氏により、これがカイサカネランと同定された

（写真 1）。

長野県内で確認されているサカネラン属のうち、もっとも類似するサカネラン *Neottia nidus-avis* (L.) Rich. var. *mandshurica* Kom. と本種の区別点は、○唇弁が短く、他の花被片とくらべてやや長い程度 ○花期が 8～9 月と遅い（サカネランでは、5～6 月）などである。また、カイサカネランは植物体全体が緑色をしている点も特徴の一つであるが（今井・井上 1998）、今回確認した個体は全体がクリーム色で、わずかに花被片に緑色を確認できる程度であった。

今回カイサカネランの生育を確認した場所は、落葉広葉樹林の斜面中腹で、礫の多い土質であった。上層部を構成する木本はミズナラ、シナノキ等で、下層植生の植被率がやや少なく所々表土が露出していた。

長野県内におけるカイサカネランの産地は、今ま



写真 1 高山村でみつかったカイサカネラン *Neottia japonica* (M.Furuse) K. Inoue (2007 年 9 月 13 日 井浦和子撮影)

* 井浦 和子 〒382-0831 上高井郡高山村高井 2866

で伊那市（旧長谷村）、松本市（旧四賀村）、釜無山地の3産地が報告されている（今井 1999）。このうち近年に生育が確認されているのは1産地のみである（長野県 2002）。今回新たに確認された高山村の生育地については、今後も生育状況を注意して見守っていきたいと考えている。

最後に、カイサカネランの同定をしていただき、本報告の制作にあたり貴重な資料の提供や助言をいただきました長野県環境保全研究所&ハーバリウムNACの大塚孝一氏に心より感謝いたします。また、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設の井田秀行氏にお世話になりました。お礼申し上げます。

証拠標本：長野県高山村松川

（井浦和子、2007.9.13、NAC149471）

引用文献

- 今井建樹・井上健（1998）カイサカネラン再発見される．植物分類地理 49：197-199.
- 今井建樹（1999）長野県の植物覚書．長野県植物研究会誌 32：43-46.
- 内田暁友・滝田謙譲（2007）北海道におけるカイサカネラン（ラン科）の産地．知床博物館研究報告 28：7-8.
- 環境省（2007）環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）植物Ⅰ（維管束植物）.
- 長野県（2002）長野県版レッドデータブック長野県の絶滅のおそれのある野生生物 維管束植物編.